

お客様の自宅拝見！

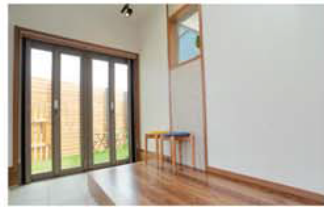


父親の選択

浜松市中区 A様邸

高架を走る遠州鉄道の赤い電車。浜松中心部の風景がまるでジオラマのように広がる浜松市の丘陵エリア。白と黒ツートンの外壁と木製フェンスのコントラストが美しいA様邸。「どこに居ても家族の気配が感じられる家」がコンセプトの住まいです。

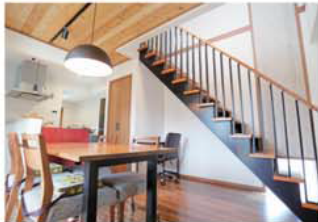
郊外のお洒落なスイーツ店を思わせる白壁に囲まれた玄関扉を開けると、陽光が一面に差し込む大型ホールが広がります。「ここに子供の絵や家族の写真を飾って、ギャラリーとして使う予定です。」とご主人。玄関



大型の玄関ホール

ホールを抜けると、シースルータイプのリビングイン階段を設置したLDKが広がります。陽光が長尺フローリングの木目を浮き上がらせ、端正な空間を作り出しています。

このLDKは中庭を囲むようにL字型に配置されており、どこに居ても窓越しに家族の動きが分かる設計となっています。リビングスペースの一角は、畳スペースとなっていますが、その天井には、ご主人用ワークスペースとつながる吹抜けが設置されています。ワークスペースに居ても、リビングの家族の気配が感じられる様に、との狙いです。



リビングイン階段・キッチン

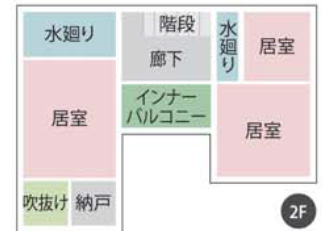


LDKの上部吹抜け

リビング

今回の住まいづくりの思い出をお聞きすると、「やりたいことが多過ぎて、どれを活かし、どれを諦めるのかの選択に悩みました。引き算する感じで辛かったですが、今となればそんな時期が楽しかったな、と思えます。」

「理想の住まいの実現とかなり意気込んだものですが、いざ検討する段になると、家族の動線・使いやすさばかり考えていたような気がします。自分の希望の多くはボツになりましたが、その代り、家族の考え、子供たちの動きを認識し直す良い機会になりました。」とご主人。



最後まで迷ったものはお聞きすると「吹抜けになっているワークスペース、当初は個室にして『隠れ家』の様にしたかったのですが、家族との繋がりを優先させることにしました。」とのことですが、僭越ながら筆者が見てもその方が正解のような気がしました。

新築されて変化したことを伺うと「借家暮らしの時は、子供を祖父母の家で遊ばせることが多かったのですが、今はLDKで走り回っています。そのためか今度



中庭

は、祖父母の方から訪問してくれるようになりました。一気に大家族になった感じです。」とご主人。中庭の使い方をお聞きすると、「今はプールを出したり、縄跳びをしたりと子供の公園代わりになっていますが、計画上は、友人を呼んでBBQをやったり、アウトドアダイニングに使う空間なんです。まだ引越した後で忙しく実現していないのですが、今秋くらいには・・・。」「義父が愛犬の散歩途中に立ち寄ってくれるのですが、中庭が丁度給水ポイントになっていて、中庭を一番喜んでるのは、レトリバーのジョニー君かもしれません。」とご主人。

家族とのコミュニケーションを重視し、極力壁を排したA様邸は、合計三世代が集う、会話の絶えない、朗らかな空間を作り出しました。丘の上のお洒落な邸宅は、そんな優しい雰囲気にも包まれ、ひっそりと佇んでいました。

中庭へと続く、開放感あふれるフルオープンなサッシ▶

